

**CASBEE京都-新築(2015年版)**  
株式会社島津製作所 新開発棟(仮称)ヘルスケアR&Dセンター建設工事

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2015年版)  
■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄					
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体	評価点	重み係数	評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>									
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 騒音									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
2 アスベスト対策									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御									
<b>Q2 サービス性能</b>									
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
3 衛生管理業務									
<b>2 耐用性・信頼性</b>									
2.1 耐震・免震									
1 耐震性									
2 免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数									
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
6 主要設備機器の更新必要間隔									

2.4 信頼性					3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			※評価チェック項目参照	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			※評価チェック項目参照	3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			※評価チェック項目参照	3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり					5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			階高4.3m以上確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率:0.0987<0.1	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性					4.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	効ニカルバルコニーシステム天井の採用により仕上げ材を痛めることなく修繕、更新可能	5.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	仕上げ材を痛めることなく修繕、更新可能	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	システム天井、OA707の採用により仕上げ材を痛めることなく修繕、更新可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	システム天井、OA707の採用により仕上げ材を痛めることなく修繕、更新可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	効ニカルバルコニーの配置	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			バックアップスペースの確保(効ニカルバルコニー)	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A(全国版準用)	※評価チェック項目参照	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加算) D(独自基準)	西ノ京桑原町地区地区計画、遠景デザイン保全地区	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A(全国版準用)	※評価チェック項目参照	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)	※評価チェック項目参照	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.99	2.3	0.20	-	-	2.3
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	※評価チェック項目参照	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加算)	BEI 非住宅 - 住宅(専有部) -	5.0	0.50	-	-	5.0
				集合住宅以外の評価(3a.3b)	5.0	1.00	-	-	
				集合住宅の評価(3c)	-	-	-	-	
4 効率的運用					5.0	0.20	-	-	5.0
					5.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				BEMSの採用	5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				目標値の設定と、コミショニングが計画されている	5.0	0.50	-	-	
					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				フラッシュバルブ式、擬音装置付	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1		●自然	A(全国版準用)	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	
2				雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A(全国版準用) B(推奨内容)	床タイル、ビニル床タイル、天井材	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	OA707や可動式間仕切りの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				接着剤、シーリング材、塗料	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70	-	-	
1					-	-	-	-	
2				ODP=0、GWP=1	5.0	0.50	-	-	
3					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮				省エネ設計から二酸化炭素排出量低減に努める	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮					4.3	0.33	-	-	4.3
2.1 大気汚染防止				燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)	※評価チェック項目参照	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					4.3	0.25	-	-	
1					-	-	-	-	
2					3.0	0.33	-	-	
3				※評価チェック項目参照	5.0	0.33	-	-	
4				※評価チェック項目参照	5.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1					3.0	0.50	-	-	
2					3.0	0.50	-	-	
3					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1					3.0	0.70	-	-	
2					-	-	-	-	
3					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.7	0.20	-	-	
1				広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2		●とも	B(推奨内容)	日射遮蔽型のLow-Eガラスを使用しグレアを低減	4.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる